

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。
状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 横山美術館【愛知・名古屋】(<https://www.yokoyama-art-museum.or.jp/event/>)

11月7日(土)～2021年2月28日(日)

企画展：目でも陶酔できる ウイスキーボトル展

ウイスキーメーカーがしのぎを削って企画・発注した陶磁器製のウイスキーボトルのデカンターは、輸出用の陶磁器製の置物「セト・ノベルティ」をつくる技術を応用し、多くが瀬戸で制作されました。細部にまで表現の行き届いた写実的な装飾品としての地位を確立させ、現在でもコレクターの間では人気の高いアイテムとなっています。題材はカウボーイや独立戦争、野生動物、偉人、銀幕のスター、自動車など多岐にわたり、どこがボトルの栓なのか分からないほどに巧みな造形です。ウイスキーは酒であると同時に、政治、経済、文化であるともいわれています。ボトルに表された、アメリカン・スピリットに陶酔してみたいかがでしょうか。



2. 瀬戸蔵ミュージアム【愛知・瀬戸】

(<http://www.seto-cul.jp/information/index.php?s=1600995556>)

9月26日(土)～12月27日(日)

企画展：新収蔵品展 2018-2019

瀬戸蔵ミュージアムは、2005年3月の開館以来、全国的にもユニークなやきもの専門の博物館として瀬戸焼の魅力を伝えてきました。その活動のひとつが作品・資料の収集で、これらの多くは市民の皆様からのご厚意により寄贈されたものです。今回はこうした収集活動の成果をお知らせするため、「新収蔵品展」と題して、2018年から2019年までに新たに収蔵した資料のうち約80点を紹介します。



3. 高浜市やきものの里かわら美術館【愛知・高浜】

(<http://www.takahama-kawara-museum.com/exhibition/detail.php?id=351>)

10月31日(土)～12月20日(日)

企画展：市制50周年・開館25周年記念 土と炎の継承—高浜の景色—
高浜市制50周年と、やきものの里かわら美術館開館25周年を記念し、これまでに蒐集してきた作品とともに、瓦のまちとして技術を継承し続ける高浜市の景色を紹介いたします。本展では、屋根に葺かれた実用的な瓦から、瓦の素材や技法を用いた現代アート作品まで、土と炎により生み出され続けた「やきもの」を展示します。また、写真家・中野耕司氏が写し出す高浜・瓦・やきものに関連する景色をお楽しみください。



4. 石水博物館【三重・津】(<http://www.sekisui-museum.or.jp/exhibition/kaisaiyu.html>)

10月10日(土)～12月6日(日)

企画展：香雪美術館所蔵名品展「数寄者・村山龍平の茶の湯」



香雪美術館は、朝日新聞社の創業者・村山龍平翁(1850～1933)のコレクションを収蔵・公開する館です。伊勢国紀州藩田丸領(現三重県度会郡玉城町)の武士の家に生を受け、元来美術に深い関心を寄せていた村山翁は、大阪で朝日新聞社を立ち上げ財界入りを果たすと次第に茶の湯に傾倒し、数寄者として知られるようになります。本展では、香雪美術館の珠玉のコレクションの中から重要文化財1点と重要美術品3点を含む名品を中心に、三重県ゆかりの数寄者・村山翁遺愛の茶道具を紹介します。

5. 九州陶磁美術館【佐賀・西松浦】(<https://saga-museum.jp/ceramic/exhibition/limited/2020/09/003438.html>)

10月16日(金)～12月13日(日)

企画展：開館40周年記念・寄贈記念特別展「柴澤コレクション」

佐賀県立九州陶磁文化館は、昭和55年(1980年)11月1日に開館し、令和2年(2020年)に40周年を迎えます。これまでの肥前地域を中心とする九州の古陶磁の調査研究が国内外で評価され、その実績が所蔵者・蒐集家の信頼につながり、多くの古陶磁を寄贈いただく契機にもなりました。本展は、長年にわたって古美術の蒐集に情熱を注がれた、故柴澤一仁(しばさわかずひと)氏のコレクションが当館に寄贈されたことを記念して開催するものです。平成28年(2016年)と令和元年(2019年)に寄贈いただいたものを合わせて432件1,179点が柴澤コレクションとして当館に所蔵されることになりました。新潟県や山形県に伝来した江戸時代の肥前磁器(古伊万里)を、各地域の旧家や古美術商をたずねるなどして蒐集されたものが主体となっており、このコレクションの大きな特徴となっています。江戸時代、日本海海運によって北東日本海沿岸地域に流通した多様な肥前磁器の数々を中心とするコレクションの全貌を紹介します。

